

# さざなみノイエ

「水」の要素をきっかけに「大地の再生」の視点と技術を学ぶ。  
自然と人が育み合う園庭環境づくりへ。

## 保育環境づくりのポイント

大地が健やかであることが、乳児期に経験したい様々な感覚に呼応できる豊かで自然な園庭環境を作り出す。今回は、特に「水」の要素を充実させたい。進めていくなかで、土や水や空気の循環を取り戻す方法を学ぶことがテーマになった。

～こどもたちのこの力を育みたい～

- ☑感じる・気付く力
- ☑うごく力
- ☑考える力
- ☑やりぬく力
- ☑人とかかわる力

## 取組み内容

### Phase 1 = 観察と構想

園庭で子どもたちの様子を観察する  
感覚／要素／動きで分類して俯瞰する

俯瞰する視点…

感覚＝シュタイナーの十二感覚の考えから9つの感覚  
〔視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚・熱感覚・運動感覚・平衡感覚・生命感覚〕  
要素＝木火土金水（前年までの木村先生との学びから）

乳児期にとくに関わりが深い、触れあいたい、  
「水」の要素の充実をテーマとする。

### Phase 2 = 散水栓の整備

園庭の遊びの状況から動線を考え、散水栓を計画。  
プロの手を借りて、園庭に配管した。

### Phase 3 = 水の流れのテーマは園地全体の循環へ… 「大地の再生」の考え方と方法を学ぶ。

園庭は、造成地に園舎竣工後のままの状態から、  
開園初年度の植樹によって起伏がもたらされ、  
平地は表面を芝が覆っているだけの状態。

畑や土、草木、生き物など、子どもに触れて欲しい  
さまざまな要素についても園庭に取り入れてきたが、  
今回さらに園地全体の健やかさを求めた手入れを学ぶ。

水は、すべての生命にとって重要な要素。  
地面を通して、すべてに影響を与える。  
周辺の草刈りの方法の学び、点穴や水脈を整備。  
自然の理にかなった整備として「大地の再生」  
の考え方を学び、実践を始めることができた。

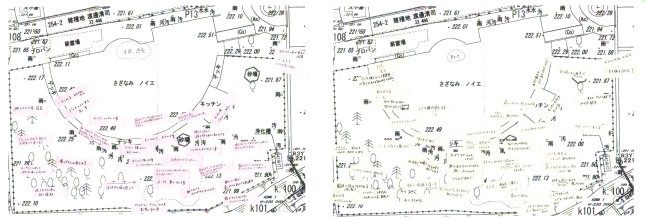
より豊かに五感で触れられる園庭環境を育てていく。

### 園庭づくりからの学び：

自然を「つかって」遊ぶ から一歩進んで、  
自然と「触れ合い、育ち合う」人間像・暮らし像を見出すことができた。

子どもを中心に、周辺の土地環境まで視野を広げ  
地域の環境保全まで繋がった保育像の可能性を感じた。  
散水栓の整備ができたことで、ますます子どもたちの遊びに幅が出る。  
それだけでなく、水と空気の循環を整え、敷地全体の健やかさについて、  
周辺の自然環境までを視野に入れて考えることができた。

切られることへの反発、どんな植物も存在する意味がある、  
一気に変えないこと、抜けるところが詰まっていると循環が始まらない…  
自然の見方と関わり方を学ぶことは、保育を考える示唆に富む  
深くて体験的な学びとなった。



まず、子どもたちの園庭の様子を五感・動きで観察。要素や感覚を俯瞰して、水をテーマに決める。



3箇所に散水栓を設けることを決める

「大地の再生」の考え方、土地全体の水や空気の流れを捉える視点「見立て」を学ぶ



大地園芸の兼田さんの講義で、現代建築土木による地中の空気と水の流れの変化について知り、環境整備の基本的な考え方を学ぶ。



園地全体の土中環境を改善する「点穴」整備

散歩道には地中にも手を入れながら自然素材の丸太橋を



「点穴」整備の考え方

### <今回の取組みを通して>

今まで園庭づくりを考える場面で、「この季節になると、これが欲しいな。」とついつい物を加える考えの傾向にあった。  
そこをまず、今の子どもたちを観察する視点を深めることで足りない物を物で補うのではなく、子どもや自然、大人自身と対話する保育を見直す機会になった。

また、専門家と實際手を動かすことで、園庭づくりにつなげていくだけでなく、そこで暮らす人々、地域を豊かにしていくこの可能性を生み出している。今回に止まらずぜひ次回にもつなげていきたい。

保育士 百鳥彩実

イラスト図解は全て  
「大地の再生」  
空気と水の流通循環を回復する  
矢野智恵、水田江美香  
大地の再生技術研究所 編  
奥文庫 より

